



明日を信じて

新潟市立潟東小学校 平成30年10月19日発行 第7号
「明日（あす）を信じて」は校歌のサブタイトルです

信濃東川・信濃西川

校長 篠宮 敏明

西蒲区には、「西川」が流れています。信濃川・中ノロ川に比べると幅も狭く、長さ4.5kmほどの規模の小さな川ですが、大河津分水で信濃川から分かれ、西区平島で再び信濃川と合流する一級河川です。

私は子どもの頃、西川の近く（旧巻町堀山新田）に住んでいました。桜並木、木製の橋、渡し場等、風情ある姿に愛着を感じていました。一方、好奇心が強かったのか、「なぜ西川というのだろう。西があるなら、東川もあるのかな」という疑問も抱いていました。しかし当時は、それを調べるすべもなく、疑問は解決することなく40年近くの歳月が過ぎました。

数年前、「信濃川大河津資料館」を訪問した際、一つの展示資料が40年来の疑問を解きほぐしてくれました。その資料によると、昔、「信濃川」は「信濃東川」と、「西川」は「信濃西川」と呼ばれ、越後平野を流れる2つの大河であったそうです。度重なる洪水と治水を経て現在の姿となり、名前も「東」がとれて「信濃川」に、そして「信濃」がとれて「西川」になったということです。この資料に出会った瞬間、長年の胸のつかえがとれるとともに、信濃川と西川の偉大な歴史と治水に懸けた先人の努力に心がときめきました。

小学校の学習の基盤は地域です。子どもたちは生活科・社会科・理科・総合的な学習の時間等、様々な学習で地域とふれあいます。地域に出向き、地域の事象を見聞きし、さらに実体験をしながら確かな知識・技能を身に付けます。これらは、教室の中で教科書や事典、写真やビデオを見ただけではなかなか習得することができない力です。潟東地域には、自然・歴史・文化・産業・民俗等、有形・無形の教材が数多く存在します。潟東小学校の子どもたちはそれらの教材とかわり、成長しています。

そして、さらなる宝物は地域の人材、すなわち地域の皆様です。子どもたちは皆様から、様々な場面でご指導、ご支援をいただいております。教職員にはない専門的なご指導をいただけるだけでなく、皆様とのかかわりとふれあいは、子どもたちの生きる力の育成や豊かな心の成長につながります。

潟東小学校・潟東中学校は、新潟市初の「小中併設型一貫校」の校舎完成を目指し、「小中一貫教育パイロット校」としての取組を進めています。生徒指導・特別支援教育・食育等、様々なプログラムでの一貫教育のあり方を検討し、実践しています。総合的な学習の時間もその一つです。①地域学習、②キャリア教育、③修学旅行での実践を目指した調査・探求学習の3つを柱として、目指す児童・生徒像を設定し、ねらいや内容・活動を連続させた一貫教育を進めていきます。

そして潟東小学校では、地域の宝物（教材・人材）と子どもたち・教職員とのかかわりをさらに強くしてまいります。子どもたちは地域を舞台に活動を展開します。私が40年かけて感じる事ができたあの「ときめき」を、何度も何度も感じとってくれることを心から願っています。